

# たわわ

2016  
No. 99

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。





左から金子さん、飯島さん、藤間さん、原田さん

平塚市内にある県立高浜高校には「文楽部」があります。高浜高校文楽部で練習しているのは三人で一体の人形を動かす三人遣いの文楽ではなく、一人が一体の人形を動かす一人遣いの人形浄瑠璃です。

一人遣いとはいえ、例えば「三番叟」という演目では演技手が二人、黒子が二人で合計四名が必要となります。

現在部員は四名。

高浜高校OBを中心に組織される湘南座の皆さんの指導の元、伝統芸能である文楽の魅力に触れた部員の皆さんにお話を伺いました。



四人が文楽に触れるきっかけはそれぞれ違いました。

弓道をやっていたので袴が身近だった、という三年生で部長の原田さん。唯一の男性部員です。小さい頃から日本舞踊をやっていた副部長の藤間さん、和風柄がもともと好きだった飯島さん、小さな頃から着物が好きで祖母も三味線や民謡をやっていたのは金子さん。三人は二年生です。

全員がもともと文楽が好きでやってみたかった、というわけではありません。

二年生の三人は、新入生だった時に文楽との運命的な出会いを果たしたのです。



から踏み入れた文楽の世界。

難しい内容や慣れない動きもあって身につけるのには苦労をしているようでした。けれど全員「部活をやめたくったことはない」ときっぱりと言います。



取材の日は「三番叟」の練習風景を拝見しました。

三番叟は民俗芸能や人形芝居では有名な演目で、豊作祈願の

舞です。人形は左右に一体ずつ立ち、扇と鈴をもって掛け合いを交えながら行われる約15分の演目です。

一人遣いの場合、人形の手足は人間の手足と同じ動きをするので、遣い手はまず舞を覚えなければなりません。扇を持って踊る四人の動きは十分様になっています。

「この部活を通じて和の礼儀を学びました」と原田さんは言います。

古くから伝わる動きを自分の体に教え込むことで、伝統的な動きの美しさを学べるのかもしれませんが、全員自分で着付けもできるようになったとのことで、和服の扱い方や扇や鈴の扱い方などの文楽に触れていなかったら知ることのなかった知識が身につけているのがよく分かりました。

一つ演目をやりきるとほっとした顔をする皆さん。

初めて一つの演目を人前で披露した時には、今までにない程の充実感があったようです。

老人ホームや市主催の郷土芸能大会等で披露するのは緊張も並大抵でないそうですが、人前に立つという達成感も格別だと話していました。

「見てくれたお客さんが感想をくださったりとすると、今まで頑張ってきて良かったなと思います」と金子さんは教えてくれました。

最初は難しく全然上手いかなかったのに、身につけてきて細かい動きも漏らさずできるようになった時には仕上がっていく嬉しさに気付いたそうです。「皆と準備をしているときの楽しさもあるからやり続けられます」という言葉には全員が頷いていました。

練習場所に置かれていた人形や小道具はとても丁寧に扱われていました。長く引き継がれているものに対する彼らの敬意が感じられ、見守る顧問の先生や指導に当たっている湘南座の皆さんの目はとても優しく、明るく楽しい雰囲気での練習は今日も続いています。

### 【プロフィール】

#### 高浜高校文楽部

昭和52年の創部以来40年以上にわたり、日本の伝統芸能である「文楽」の伝承に励む。休部を経て、平成26年に熱意のある生徒の努力で復活。平成27年には須賀公民館ふれあいまつりで「二人三番叟」を披露。

今年度は7月に「湘南ひらつか七夕まつり郷土芸能大会」に出演したほか、11月20日(日)「ひらつか民俗芸能まつり」(平塚市中央公民館)への出演も決まっている。



三番叟で使用される人形の体



## ひらつかの文化財を知ろう⑩

### 時代の変化を物語る文化財 小銅鐸

市城西の大磯丘陵からは金目川が作り出した肥沃な沖積平野を望むことができます。水田が美しい景観を造っています。弥生時代にも地域を支える経済的基盤として水田が営まれていたことでしょう。しかし、次の古墳時代になると地域や農耕を支える背景に変化が起きました。弥生時代を代表する遺物である銅鐸がそれを示してくれました。

平塚で出土したのは小銅鐸といわれるもので、模様がなく身の同側には幅の狭い鑿（ひれ）がついています。紐（ちゅう）の高さが2cm、身は8cmあります。神奈川県内ではこの他に海老名本郷遺跡や河原口坊中遺跡（海老名市）の3点しか出土していない貴重な遺物です。発見されたのは古墳時代初めの大磯丘陵の谷戸を利用した集落です。現在のめくみが丘一丁目4番から5番付近にあたります。谷の中央には湧水や雨で削られてできた溝がありました。この溝は徐々に埋まっていきますが、そこに集落で使われた土器と共に小銅鐸も二つにちぎられ捨てられていました。



小銅鐸出土地点と説明板

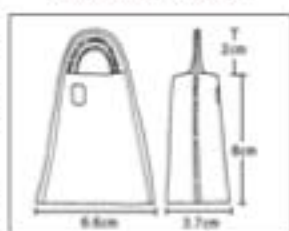
平塚市には、国、県、市それぞれが指定する文化財があります。日頃触れることの少ない、貴重な文化財について御紹介します。

弥生時代には、小銅鐸などの青銅製品は祭器として農耕祭祀で使われていました。時代が下ると支配者の権威のシンボルとしての意味が強くなってきます。さらにこの小銅鐸はその権威にとってかわった別の価値観により壊され廃棄されたのです。塚越古墳や真土大塚山古墳などの古墳が造られるこの時期、時代の関心が農耕などの生産から政治的なものへと変化していったのでしょうか。

小銅鐸は通常は平塚市埋蔵文化財調査事務所（住所 寺田縄43-1 電話59-3981 平日のみ）で見学できますが、年内は貸出しのため次の場所でご覧いただけます。朝霞市博物館（住所 埼玉朝霞市岡2-7-22 電話048-469-2285）企画展「小さな銅鐸を追って～銅鐸形土製品と小銅鐸～」平成28年11月5日（土）から12月11日（日）（休館日 月曜日、祝日の翌日）



内沢遺跡出土 小銅鐸



小銅鐸 模式図

## 姉妹都市提携25周年 ローレンスレポート⑥

アメリカ・カンザス州ローレンス市と平塚市は平成27年9月21日に姉妹都市提携25周年を迎えました。これを記念した連載6回目は、キャロル・シャンケルさんがローレンス市ダウンタウンの彫刻とアートセンターを紹介します。

### ローレンス と言えばココ!

姉妹都市提携25周年を記念して平塚市公式訪問団がローレンス市を訪問する10月、ローレンス市のメインストリートでは現代彫刻を見ることができます。

その名も「第28回ダウンタウン野外彫刻展」で、主催はローレンスアートコミッションです。

8人のアーティストによる作品がマサチューセッツストリートなどの場所で展示されます。

マサチューセッツストリートは2010年、アメリカ都市開発協会「全米の最も優れたストリートTOP10」に選ばれました。日除けの樹木、花でいっぱいのプランター、画廊、ブティック、バラエティに富んだレストラン、年間通した彫刻の展示などが、ダウンタウンを訪れるお客様を歓迎しています。



新しく改装され、拡張された図書館の前の彫刻

ローレンスアートセンターはこの通りから1ブロック離れたところにあります。モダンな建物で、美術、舞台芸術、映画などに触れられる地域の中心的な存在です。芸術の講師陣がバレエ、モダンダンス、舞台パフォーマンス、美術のコースを指導していて、毎年1万人の学生（就学前の幼児から大人まで）がコースを受講し、アートセンターには20万人以上が訪れているのです。



ローレンスアートセンター

平塚市訪問団が訪れる時期にはシモン・レビンの作品展示があります。彼はウィスコンシン州の陶芸家ですが、その作品には日本の「焼き物」の影響が特徴として見られるので、平塚市訪問団に特別な興味を持ってもらえるかもしれませんね。



マサチューセッツストリートの彫刻

# 『史跡の風景』第18回

## 失われた記憶 八雲古墳



上平塚の鎮守 八雲神社の境内

古墳といえば大きな盛り土を思い浮かべます。しかし、千年以上の年月は多くの古墳の盛り土を削り取り、見た目だけでは古墳の存在をわからなくしてしまいます。こうした失われた古墳のひとつが八雲古墳です。

平塚市街地西部に位置する八雲神社は上平塚の鎮守として地域に親しまれてきた神社です。現在の境内は北側に市道八幡神社土屋線が整備されて東西に細長くなっています。この道路整備工事に際して実施された発掘調査で直径約13mの円墳が確認されました。土を盛った墳丘は既に無くなっていましたが、古墳の周囲に掘られた周溝が検出されたため、古墳の存在がわかりました。埋葬施設は失われていましたが、墳丘の裾部から出土した須恵器の年代から築造時期は約1500年前、古墳時代後期のものと推定されました。

八雲古墳がある八雲神社境内は、平塚市街地を形作っている砂州・砂丘地形の西端にあたり、花水川の流れが作り出した低地に向けて張り出した微高地です。古墳は一般的に見晴らしの良い高台に作られます。今では店舗や住宅に囲まれて、わずかに残る街の緑という状況になっているこの場所ですが、かつては西側の低地を見下ろし、その先に花水川の流れや高麗山を望む見晴らしの良い場所だったはずです。神社の鳥居が建つ西側から県立平塚商業高等学校のグラウンドに面した南側にかけて見られる傾斜地は砂州・砂丘地形の



境内南側の斜面



境内西側の水路

縁辺部にあたり、低地の地形との境界を示しているのです。ある時期には眼下を花水川が流れていたと考えられます。鳥居の左右に見られる水路は花水川の旧河道の名残りで、明治時代の地図では旧達上池（現在の達上池の

西側にあったもう一つの池）から流れ出した小川が描かれています。

発掘調査では、古墳の周溝に重なって作られた竪穴住居址が見つかりました。築造後100年もたたないうちに八雲古墳は削られていたのです。以後この地は集落として機能していくことになるのですが、単なる集落ではなく相模沖積平野の西側の拠点として大きな意味を持ていきます。古墳の北側にある県立平塚農業高等学校一帯と推定される中世「平塚城」は武家の都鎌倉にとって西の重要拠点になります。さらに徳川家康が建てた中原御殿にとっては、東海道に対する前線の役割を担う位置にあたります。この場所には古墳だけでなく、まだ多くの知られざる歴史が刻み込まれているのかもしれない。



境内北側 八雲古墳があった位置

### 平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されています。基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。  
(0463-32-2235)

平塚市文化振興基金に御寄附をいただいた方  
(平成28年6月から平成28年9月(敬称略))

◆湘南ステーションビル株式会社(H28.8.29)

### 平塚市文化祭の御案内

10月6日～11月20日まで第64回平塚市文化祭を開催しています。  
詳しくはホームページ  
([http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/syakai/bunnka\\_saitop.htm](http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/syakai/bunnka_saitop.htm))を御確認いただくか、  
社会教育課(0463-35-8123)に御連絡ください。



発行 平塚市文化・交流課

〒254-0045 平塚市見附町 15-1 平塚市民センター内 電話 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

平成28年(2016年)10月15日発行 e-mail [bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp](mailto:bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp) ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/index.htm>

再生紙を使用しています